

# With

## ウイッス

～私たちが私たちらしく暮らせる地域づくりを  
みんなですすめようという意味を込めています～

西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 生活支援コーディネーター

音川（全市）・高井（中央）・金森（鳴尾）・牧（瓦木）・中川（甲東・甲陽園）・高田（北部）

〒662-0857 西宮市中前田町1-23 地域共生館ふれぼの内

TEL(0798)61-1361 FAX (0798)61-1409 kyoseimachi@n-shakyo.jp

### 生活支援コーディネーター かつどうトピックス

### 各地ではじまっています！ 共生型地域交流拠点、立ち上げに向けた動き

生活支援コーディネーターは、個人の家や集会室、お店等を活用した多様なつどい場づくりを、やってみたいと思う方に寄り添いながら共に考え、立ち上げに向けてサポートしています。その中でも「共生型地域交流拠点」は子どもから高齢者まで地域に住む誰もが集える場で、行けば誰かいる常設拠点（週5日オープン）として、市内全域への普及を目指しています。

常設拠点の立ち上げにあたっては、地域住民や地域の組織・団体、社会福祉法人等、多様な主体と協議を重ね、地域性に応じた拠点づくりを目指しています。

現在市内には3か所あり、いずれも地域住民が主体となって、地域の各団体や社会福祉法人等と連携しながら運営中です。今春には新たにスタートする拠点もあり、地域の課題解決や居場所づくり、ネットワークづくりの新たな一歩として取組みが進められています。



「共生型地域交流拠点」：まちCafé なごみ

「共生型地域交流拠点」等の取組みについては、今後のWithに掲載していきます！  
お楽しみに♪



### 生活支援コーディネーター訪問記 “ええもん めっけ”

### コミュニティが生まれる本屋さん リトル書房（甲子園六番町）

今回紹介するのは、甲子園六番町、甲子園けやき散歩道沿いにお店を構えるリトル書房さんです。

店内に3畳程のフリースペースを設け、絵本の読み聞かせや、ピアノ演奏等を実施しています。

本と人だけでなく、人と人が出会う“コミュニティ”が生まれる本屋さんとして、地域の方に親しまれています。

鳴尾圏域生活支援 Co・金森

#### 絵本読み聞かせ会の様子



月に2回誰でも参加できる絵本読み聞かせ会を開催。来てくれた子ども達に書店の中から好きな絵本を選んでもらって読んでいます。どれにしようか迷うほど種類豊富な本がズラリ！

近所の親子が集まって、自然と顔見知りになるつながりが生まれています。

近所の方による手相鑑定等の持ち込み企画も！地域の方が特技を活かせる、人がつどう機会として、フリースペースは様々な形で活用されています。



来てくれる方の声を聞いて本を厳選



リトル書房店長さん

会社を早期退職し、お住まいの地区で書店を立ち上げた店長の後中さん。近年はインターネットで本を買ったり読んだりする人が多い中、リアルな“お店”だからこそ“人とのつながり”や“コミュニティ”をつくれるのではないかとの思いで、書店の中にフリースペースを作ったそうです。「地元の方に喜んでもらえる、地元の方と一緒に育てていける本屋さんになりたい」と、地域への想いを話してくださいました。

# 共 生 の ま ち づ くり 実 践

## その⑧ 人と空間

“人”が集まる“空間”

共生のまちづくりを実践する地域の常設拠点として、2016年に誕生した「地域共生館 ふれぼの」そこで生まれてきたエピソードの最終回です！

最初は2人  
同じ空間で知り合った2人

そして、3人へ  
少しずつ、少しずつ



空間の中で、輪は確実に広がります

「地域共生館ふれぼの」は、四年間の活動を経て、様々な人たちが来てくれるようになりました。特別なプログラムがなくても、同じ「空間」にすることで自然と生まれてくる“つながり”があります。そして、「空間」だけではなく、そこには「人」と「人」をつなぐ「人」の存在が大切とも気づきました。市内では、今春から新たな常設拠点が生まれます。“みんなの居場所”がこれからも増えますように。

### あったかエピソード 「知り合うことから」

ふれぼのが開館する4年前、「ふれぼのでやってみたいこと」を地域の方々と話し合った中で、「寺子屋」というアイデアが出ました。当初は子供たちが地域の達人に様々なことを学ぶ機会といったプログラムをイメージしていたと思います。

そのアイデアを基に多世代交流をイメージして開始したのが「ふらっとパーク」。いろいろな人が、ふらっと立ち寄ってもらえるような居場所として、月1回土曜日の午後1時に大学生や地域の方々、障害のあるメンバーと協働開催してきています。

「ふらっとパーク」が始まった当初は、毎月、プログラムを企画することに必死だったり、毎回、“何人集まった”ということに、一喜一憂する状況が続きました。

活動が進むにつれて、「ふらっとパーク」として新たに人を呼び込むのではなく、活動者としてそこに集まった大学生、地域の方々、障害のあるメンバー同士が知り合うことから始めようと方向転換、子どもたちも放課後に遊びにきている顔ぶれが自然と土曜日に来られるようになってきました。

決められた場でなく、ふらっと立ち寄れる場、その空間はゆっくりと時間をかけて育て



きています。この写真は、自然な「寺子屋」の一場面、達人と学生と一緒に「コケ玉づくり」です。

小学校4年生（当時）の作品。地域活動センター「ふれぼの」メンバー（右）がフリースペースで宿題をしていた小学生に声をかけた様子です。どちらか一方が「助ける」ではなく、「助け合う」関係性なのだ、同じ「空間」にいた中での気づきです。



カフェという「空間」の中で、「人」と「人」をつなぐのも「人」。大事にしていることは、コーヒーの“味”？ それに加えて「人」と「人」のつながり“愛”です



凸凹コンビが笑顔でお待ちしています！  
(夫婦ではありません！(^\_^)！)